

公益社団法人日本新体操連盟

平成 29 年度第 4 回理事会議事録

1. 会議名： 平成 29 年度第 4 回理事会
2. 日時： 平成 29 年 9 月 20 日（水）19 時 00 分～20 時 30 分
3. 場所： 東京都港区西麻布 3-2-32
「霞会館」
4. 構成員現在数： 16 名
5. 出席役員： 二木 英徳（会 長）石崎 朔子（副 会 長）池田真喜子（専務理事）
渡辺 守成（常務理事）崇島 慎一（理 事）橋本 千波（理 事）
熊谷 正儀（理 事）宮嶋 泰子（理 事）守永 直人（理 事）
以上 9 名
6. 欠席役員： 関田史保子（副 会 長）福本 隆（副 会 長）山崎 浩子（常務理事）
秋山エリカ（理 事）谷原 誠（理 事）谷口 裕代（理 事）
小島浩二郎（監 事）
以上 6 名

7. 議案：
報告事項
報告事項 1 第 26 回全日本新体操クラブ選手権について（定款第 4 条関連事項）
報告事項 2 第 17 回全日本新体操クラブ団体選手権について（定款第 4 条関連事項）
報告事項 3 イオンカップ 2017 経過報告について（定款第 4 条関連事項）
決議事項
第 1 号議案 AGG 海外派遣について（定款第 4 条関連事項）
第 2 号議案 その他
8. 議事の経過及び結果

(1) 議長による開会宣言

（公社）日本新体操連盟・定款第 30 条第 2 項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。

(2) 議事録署名人の選出

定款第 32 条により、議長は議事録署名人を二木会長、崇島理事、橋本理事にする事を議場に諮り承認された。

(3) 定足数の確認

定款第 31 条の定めにより、理事会出席者数が 9 名であることが池田真喜子理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。

(4) あいさつ

議長は挨拶をすませ、池田専務理事が進行を務めるよう依頼した。

(5) 議事進行

報告事項 1 第 26 回全日本新体操クラブ選手権について（定款第 4 条関連事項）

議長は説明者として池田真喜子専務理事を指名し、池田専務理事は下記内容の説明を行った。

1. 第 26 回全日本新体位層クラブ選手権を

7 月 27 日～29 日 東京体育館

参加者数 229 クラブ 687 名で開催した。

2. 競技進行では、1 部リーグ内で予選、決勝があるので選手たちが演技するかしないかの判断が直前になるという弊害が続いている。

3. 1 部リーグの進行をスムーズにするために、新しい開催方法を提案したい。

- ・シードチームを 5 チームから、3 チームに変更

- ・2 部リーグからのクラブチームの進出数を 6 チームから 5 チームに変更

- ・個人進出枠をシニア 16 名（第 1 種目 8 名、第 2 種目 8 名）をシニア 12 名（第 1 種目 6 名、第 2 種目 6 名）。ジュニア 12 名を 8 名に変更。

- ・1 部リーグ内予選・決勝方式の廃止。参加全選手の 4 種目演技。

(質疑・意見)

渡辺常務理事より、今までの経緯により、上位 5 チームがシード権を取れると思っていたチームへの配慮が必要と意見があった。

以上の質疑応答の結果、第 27 回大会はシードチームだけ 5 チームとして、その他は提案の内容とし、第 28 回大会より原提案のとおりとすることを全会一致で承認可決された。

報告事項2 第 17 回全日本新体操クラブ団体選手権について (定款第 4 条関連事項)
議長は説明者として池田真喜子理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

1. 第 17 回全日本新体操クラブ団体選手権を
8 月 26 日 27 日東京体育館
参加者数 230 クラブチーム 1535 名の参加者数であった。
2. 練習スペースなど増やし、新しい警告制度も設けて新たな試みを試した。警告制度では警告は出なかったが、学生スタッフへ苦情をぶつけるなど、マナーの改善につながったかは疑問が残った。
3. AGG を初めて開催したが、運営には一部混乱があった。AGG の方向性が見いだせなかった。

(質疑・意見)

熊谷理事より、AGG は 1 回目だったので、すれ違いはあったかと思うが今後の課題とできることだと意見があった。

石崎副会長より、参加者より開催は良かったと肯定的な意見をいただいている。初回とのことで課題はあったと思うが全体的には良かったと思うと意見があった。

池田専務理事より、AGG の旧役員と意見が合わなかったことがあった。組織としての体制づくりをしっかりとするか、AGG の今後の取り扱いを考える必要があると意見があった。

宮嶋理事より、AGG は面白い競技だと感じた。他の種目にも通じる競技であり、重要性を感じたと意見があった。

守永理事より、団体競技のジュニアについて、現在の開催方式であれば、今大会の参加チーム数で限界を迎えている。今後の開催方法の意見を聞きたい。大会開催日程を増やす方がいいか、抽選による予選ブロック分けを行い、決勝を行うかで方向性を示したい。

以上の質疑応答の結果、今後の団体ジュニアの競技方法は予選決勝方式で、日程を増やさない方向性で進めることを全会一致で承認可決された。

報告事項3 イオンカップ 2017 経過報告について (定款第 4 条関連事項)
議長は説明者として池田真喜子理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

1. チーム数が 23 개국 25 クラブのエントリーになっている。チーム数の関係上予選を 28 日 29 日の 2 日間で行う方式をとっている。

(質疑・意見)

二木会長より、ブルガリア、ウクライナのエントリー状況について質問があった。

池田理事より、ブルガリアはここ数年財政面で来れていない事、ウクライナはチームの事情により、キャンセルがあったことが報告された。

第1号議案 AGG 海外派遣について (定款第 4 条関連事項)
議長は説明者として池田真喜子理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

1. 審判の派遣計画と、役員の派遣計画がある。
2. AGG の海外選手派遣は上位より優先的に海外大会に出場することが前回の理事会で決まっていた。
3. 海外派遣について詳細が決まっていなかったなので、この場で決定したい。

(質疑・意見)

石崎副会長より、審判は資格保持のため、海外大会にての審判業務が必要となることが説明され、選手派遣については、カテゴリーはシニアだけ、四大陸、World Cup 2、世界選手権の3大会を派遣対象とすることが提案された。

渡辺常務理事より、自費参加の海外大会には報告だけしっかりしてもらって、参加を認める他ないのではと意見があった。

以上の質疑応答の結果、選手の海外派遣についてはシニアカテゴリーだけを対象とし、四大陸、World Cup 2、世界選手権の3大会を派遣対象とすること。自費参加の海外大会には報告だけ行ってもらい認める事が全会一致で承認可決された。

第2号議案 その他について

議長は議場に提案・意見を図ったがなかった。

(6) 閉会宣言

議長は他に質問、意見がないのを確認し理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事、監事及び指名議事録署名人は次に記名押印する。

平成 29 年 9 月 20 日

公益社団法人 日本新体操連盟 平成 29 年度第 4 回理事会

議事録署名人 (代表理事) 二 木 英 徳

議事録署名人 (指名) 崇 島 慎 一

議事録署名人 (指名) 橋 本 千 波